



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和8年度4月号
令和8年4月8日

「秒速5センチメートル」というフレーズから

校長 古澤 健史

【花より油】

お子様のご入学・ご進級、心よりお祝い申し上げます。校長の古澤 健史（ふるさわ たけし）です。栗原小4年目となりました。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

新年度の初日、栗原小学校に出勤すると満開の桜に迎えられました。あいにくの天気でしたが、ヒラヒラと桜の花びらが散り、地面にうっすらと桜色の絨毯ができていました。「秒速5センチメートル」というフレーズが思い浮かびました。新海誠さんによる原作アニメの題名で昨年実写映画化もされました。そのフレーズを思い出し、「桜の花びらが舞い落ちる速度は、本当に秒速5センチメートルなのだろうか？もっと速いような気がするのだが…」と思い調べてみました。すると、無風状態での物理実験では、秒速1.4m～1.8mであったという記録が見つかりました。この実験が正しいとすれば、実際には約30倍のスピードで散っていくということになり、随分違うなと思いましたが、直前に車のラジオで聞いた経済学の大学教授の言葉に繋がりました。その先生は、「欧米人に比べて、日本人は抽象的な説明への理解が苦手な傾向があり、数字や具体的な説明を求める傾向がある」と言っていました。そうすると、桜吹雪がスローモーションのように散っていく情景を「秒速5センチメートル」という極めてゆっくりの速度で表現していたのかもしれませんが。桜の花びらがヒラヒラと名残惜し気に散っていくのを伝えたかっただけで、本当にその速度で散っているわけではないのだと思いました。なんとも無粋な疑問で、反省しました。

さて、その経済学の教授は、もう1つ話をしていました。それは、現在のイラ

ン情勢で世界全体が原油不足で価格高騰に苦しんでいるが、補助金を出して価格を下けているのは日本だけとのことでした。その理由は、日本ほど多くの備蓄量がないことと、価格が高いことで、みんなが買い控え、消費を抑えるというねらいのためだということでした。日本では、価格を抑えることでオイルショックの時のような「トイレトペーパーがなくなる」というデマやそれによるパニックを防ぎ、みんなの生活が守られるという点はいいが、これまで通りに使って大丈夫という感覚でいるのは、本当にいいのだろうかと言っていました。隣の韓国では、ゴミ袋がなくなりごみを捨てられなくなるとデマが広がり買い占めが起こったそうです。日本で行われている対策は、ありがたいことですが、石油が確保されているうちに、やれることをすべきでないかとのことでした。

4月1日に久しぶりに緊急地震速報の警戒音が鳴りました。防災に対する意識の高い栗原地区ですが、石油と同じで更なる備えが必要かもしれません。

栗原小学校では、4月6日に全校より一足早く新6年生が、入学式の準備のために登校しました。事前準備の日に来ていない2年生から5年生の分も心を込めて教室の掃除や飾り付け、会場設営をしてくれました。また、入学式でも全力で『大きな栗の木の下で』を歌って踊り、校歌を清々しく歌いました。

令和8年度は、新1年生39名の入学に加え、特別支援学級「マロン学級」を含む全校児童数340名、15学級でのスタートになりました。保護者、地域の皆様、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきながら、我々教職員はくりっ子の健やかな成長のため、来年の50周年も見据えて、頑張っていきます。